

	月		火		水		木		金	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
総合診療	内科予約2診		[脳神経内科] 廣西		[脳神経内科] 廣西		[脳神経内科] 廣西			
	内科予約3診	糖尿外来 (稲垣)				[肝臓] 佐藤	糖尿外来 (稲葉)		糖尿外来 (稲葉)	
	内科予約4診			[脳神経内科] 中西	[循環器] 山本		[脳神経内科] 中西	[循環器] 小林		
	内科新患5診	東 裏		稲 葉		東 裏		稲 垣		田 中
	外科診							櫻 井		
脊椎ケアセンター	第6診察室		[脳神経外科] 大岩		[脳神経外科] 大岩		[脳神経外科] 大岩		[脳神経外科] 上野 【第1週】	[脳神経外科] 大岩
	第7診察室	[センター長] 脊椎 川上		[センター長] 脊椎 川上	[整形外科] 中川		[整形外科] 米良(好)		[センター長] 脊椎 川上	
	第8診察室	[整形外科] 籠谷		[整形外科] 寺口	[整形外科] 寺口		[整形外科] 籠谷		[整形外科] 中川	
眼科	泉 谷	溝 口	石 川	雑賀 岡田 【第1週】【第3週】 (眼科新患も含む) 二出川	二出川	子ども外来 (泉谷)	溝 口		石 川	[術前外来] 泉谷・溝口・二出川
小児科	応援医師		樋 口		[黄斑外来] 石 川			泉 谷		
リハビリテーション科	隅 谷		隅 谷		隅 谷		隅 谷		隅 谷	

診察受付 月曜～金曜午前8時45分～11時30分  
※第1週の水曜日午後は、加藤医師が救急対応

2019年1月1日現在



# あじさい



vol.27  
2019.冬号

## 平成31年亥年年始の挨拶



分院長  
川上 守

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

平成18年度の法人化に伴い、和歌山県立医科大学では昨年からの法人の第3期中期計画がスタートしています。紀北分院は、法人の診療部門として、より地域に密着した医療の提供と「総合診療医」養成フィールドの確立を進め、専門研修の基幹施設として、総合診療医の養成に取り組んでいます。総合診療医を育てるためには十分な知識・経験を持ち、患者さんやご

家族から信頼される医療を提供できる優秀な人材が必要です。昨年4月から廣西内科教授のもと本院の各内科診療科から優秀な医師が派遣されていますので「総合診療医」養成フィールドの基盤はできつつあります。地域に密着し超高齢社会に対応した医療を提供することに加えて、分院としての大きな特徴は本院と協調しながら高度かつ先進的な医療の充実を図ることができることです。また総合的な診療能力を有する医療人の育成のためには様々な疾患を抱える患者さんを診療させていただくことが重要です。心身に少しでも気になることがありましたら紀北分院を受診・紹介していただければ幸いです。

私が担当している脊椎ケアセンターでは、昨年4月に中川准教授、米良助教の2名が加わり、5名の診療体制となりました。今まで十分でなかった救急の対応や低侵襲脊椎手術、関節外科手術が可能となっています。気軽に受診していただくようお願いいたします。

さて、新年は亥年です。いわゆる「いのしし(猪)」にちなんで、分院の目指すべき目標に向かって猛烈な勢いで職員一丸となって突き進みたいと考えています。

本年が皆様にとってよりよい年になりますことを祈念しまして新年の挨拶とさせていただきます。

## ジェネリック医薬品について



薬局長 齊藤喜宣

ジェネリック医薬品(後発医薬品)は、新薬(先発医薬品)の特許等の期間満了後に販売される医薬品として知られています。特許権が得られた新薬については、法律の定めるところにより、一定期間、独占的に製造・販売できる特許期間があり、その期間が終わると、有効成分や製法等は世界共有(国民共有)の財産となり、世界のどの医薬品メーカーでも承認が得られた国で製造・販売が可能となります。薬によってはジェネリック医薬品がないものもあります。また、欧米では、処方せんに銘柄名ではなく、generic name(一般名、成分名)が記載されることが多く「generics」(ジェネリック医薬品)と呼ばれ、世界共通の呼称となっています。世界の使用割合は、2016年のデータで、アメリカが91.7%、ドイツが86.3%、日本が59.0%となっています。一方で、ジェネリック医薬品は、新薬と有効性・安全性・品質が同等として、すなわち治療学的に同等として、国によって承認されますが、一般的に数百億円といわれる研究開発費用が低く抑えられることから、薬価(薬の価格)が安くなります。その結果、患者さん自身の自己負担が軽減できることはもちろんですが、少子高齢化が進む日本では今後も医療費の増大が予想されることから、国の医療費を削減することにより、国民皆保険制度を維持していくために推進されています。日本のジェネリック医薬品使用割合の目標は、2020年9月末までに80%ですが、2017年度の結果は、全国平均69.6%、最高は沖縄県80.4%で、最低は徳島県61.3%で和歌山県は66.5%でした。当院でも患者さんの自己負担軽減と医療費削減を目的として、ジェネリック医薬品を提供できるよう取り組んでおります。

## 【お知らせ】

- ・平成31年1月より内科に稲葉秀文講師が着任しました。
- ・平成30年12月末で外科の櫻井照久助教が退職し、内科の竹島健助教が和歌山県立医科大学本院勤務になりました。
- ・次回の紀北分院通信「あじさい」春号は4月発行です。

## 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院 分院長 川上 守

〒649-7113 和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺219 TEL0736-22-0066(代) FAX0736-22-2579  
ホームページアドレス <http://www.wakayama-med.ac.jp/med/bun-in/index.html>

2019年1月発行



## 【掲載内容】

- ・平成31年亥年年始の挨拶
- ・新年のご挨拶
- ・ボツリヌス治療(ボトックス治療)についてのご案内
- ・「尿検査」のすすめ
- ・嚥下機能について
- ・外来診療医担当表
- ・ジェネリック医薬品について



紀北分院クリスマス会(12月21日)

## 新年のご挨拶



看護部長 / 看護部主任 梶谷 博子

明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、良い年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、今年1月には、第三者機関である日本医療評価機構の病院機能評価(3rdG・Ver2.0)を受審予定です。

患者さんの立場からの安全対策や感染防止の取り組み、良質な医療が安全に確実に実践され各部門での機能が発揮されていること、理念達成に向けた組織運営や管理などの審査が行われます。

受審は今回で2回目となります。受審を重ねるごとに、病院組織の改善につながっています。そして、職員一同が評価項目に取り組むことで、さらにより良い医療を提供していこうと個々のモチベーションにもつながっていると考えます。

看護部スタッフも、患者さんの安全、安心、安楽な看護を提供するために、看護部の理念でもある「患者さんにより添い、互いに納得できる看護の実践」を行っています。そして、多職種によるチーム医療では効率の良い医療を提供できるように、協働しやすい環境に心掛けています。

2025年には超高齢化社会をむかえて(自施設のある地域では全国に先駆け超高齢化となっていますが)、厚生労働省は、地域包括ケアシステムの構築の推進による病床機能の区分を図っています。病院から在宅、在宅から病院へと地域に密着した医療を提供していかなければならないと考えています。

地域の皆さまに期待される医療を提供し、病院の理念でもある「地域に密着した医療が実践できる質の高い医療人の育成」「安全でご安心いただける医療の提供」「地域の保健医療の発展に貢献する」ことを目指し、新年を迎え改めて頑張っていく必要があると考えています。

最後になりましたが、皆さまのご健康をお祈りし、新年の挨拶とさせていただきます。

## ■ ボツリヌス治療(ボトックス治療)についてのご案内



内科 教授・副院長 / 廣西 昌也

こんな症状で困っていませんか？

- ・顔が引きつる、ピクピクする
  - ・目がくしゃくしゃして開けられない
- 半側顔面けいれん、もしくは眼瞼けいれんかもしれません。  
紀北分院でボツリヌス治療を行っています！

半側顔面けいれんや眼瞼けいれんの治療としてボツリヌス治療が有効です。当院では経験豊かな脳神経内科医がボツリヌス治療を行っています。

### ①半側顔面けいれん(はんそくがんめんけいれん)

顔の左半分又は右半分がピクピクとけいれんする病気です。目の周辺だけのこともあり、顔全体に広がることもあります。原因は顔面神経が血管によって圧迫されるためとされています。顔面神経麻痺の後遺症として生じることもあります。動脈瘤や脳腫瘍との鑑別のため、MRIで脳の中を一度は調べておく必要があります。手術による治療も行われますが、まずは身体的負担の少ないボツリヌス治療を行うことをおすすめします。

### ②眼瞼けいれん(がんけんけいれん)

両目の周辺の筋肉が不必要に収縮するため、まばたきが異常に増加し、自由に目を開けにくくなる病気です。目がしょぼしょぼして、逆光のときに目が開けられなくなり、「まぶしい」と訴えられる方もおられます。はっきりした原因は不明ですが、脳の神経回路の異常が考えられています。薬物治療も行われますが、ボツリヌス治療が最も有効です。

### ③ボツリヌス治療とは？

半側顔面けいれんや眼瞼けいれんに対して行われている方法です。ボツリヌス毒素をけいれんしている部分に注射をし、筋肉の収縮を止めます。ボツリヌス毒素は毒素ではありますが筋肉以外には毒性の影響はなく、また局所的な作用のみのため治療としての安全性が認められ世界的に用いられていて、国内では保険適応が認められています。1回の注射の効果は3~4ヶ月で、効果がなくなれば再投与します。

## ■ 「尿検査」のすすめ



内科 学内助教 / 東裏 将己

現在、日本における慢性腎不全患者は年々増加傾向にあります。腎機能は加齢と共に低下していきませんが、糖尿病や高血圧、糸球体腎炎などの様々な要因が加わると加速的に低下していき、最終的には腎機能が廃絶した状態である慢性腎不全に至ります。一度、慢性腎不全の状態に陥れば現在の内科治療で元の腎機能に回復させる事は難しく、血液透析などを含む腎代替療法が必要になってきます。

しかしながら腎機能の増悪時は特徴的な症状に乏しく、また症状の出現は病期がかなり進行した状態でないと出現しにくいというのが治療介入の大きな妨げになっています。また腎機能低下に伴う自覚症状も全身のだるさや足のむくみ、吐き気といった非特異的な症状が多いです。例えば、足のむくみは一概に腎機能低下の症状と断定できるものではなく、心臓や甲状腺といった疾患でも認める事があります。

その為、早期診断・早期治療には「尿検査」が欠かす事の出来ない、重要な検査であると言えます。尿検査は簡便で患者さんへの負担も少なく、繰り返しの検査が容易である上に、様々な情報を得る事が出来る非常に優れた検査です。尿検査結果からは尿蛋白や血尿の有無はもちろんのこと、摂取した塩分量や蛋白質の量などある程度まで把握する事が可能で沢山の情報を得る事が出来ます。ですから市町村や職場で実施される検診などを利用して定期的に尿検査を受けるのはもちろんの事、尿検査で異常を指摘されましたら放置せず医療機関への受診をおすすめします。

先にお話しました通り、慢性的に進行する腎疾患は症状に乏しく、放置すれば気づかないうちに進行し手遅れになる可能性が高いです。特に尿検査で尿(+)蛋白(+)を認める際には腎疾患が隠れている事があり要注意です。またご自身だけでなく、周囲の方でそのような方がいらっしゃいましたら一度尿検査をすすめていただく事が非常に大切です。

## ■ 嚥下機能について

リハビリテーション科 言語聴覚士 大高明夫

飲み込みの事を嚥下「えんげ」と言います。

嚥下の「えん」は口偏に燕「つばめ」と書きます。英語で「嚥下」も「つばめ」も「スワロー」と言います。つばめは食物を丸飲みしますが人間は丸飲みする事ができません。食べるという動作には①食物を認識して②口に取り込み③しゃくして食物を柔らかくし④ごっくん⑤食物は食道を通過します。

嚥下障害があると飲水や食事でムセを認めます。これは食物が気管へ入るためです。これを誤嚥「ごえん」と言います。気管へ食物が流れるとその先には肺があり、炎症を起こして誤嚥性肺炎を発症します。冒頭で「つばめ」の話をしました動物には誤嚥がありません。これは喉「のど」の形状が人間と動物では違うためです。動物では気管と食道は分かれています人間は空気の通り道と食べ物の通り道が交差するため食べ物が入りやすい状態となっています。しかし、喉「のど」の形状が違うため人間は言葉を発する事が可能です。いわば言語を獲得した代償に誤嚥のリスクを背負う事になったのです。嚥下障害の原因には脳卒中などの病気、加齢による嚥下機能の低下などがあります。加齢によって足腰の力が衰えるのと同じように飲み込む力も弱くなり加えて感覚も低下するため嚥下反射が遅くなりムセの事が多くなります。水分でムセを認めればトロミをつける事で喉にゆっくり水が流れるため嚥下反射とのタイミングが合いやすくなりムセの軽減につながります。食事形態の工夫も有効です。

家庭でできる簡単な嚥下評価として唾液飲みテストがあります。これは30秒間に連続で唾液を飲み込む検査で正常では30秒間に3回以上とされています。

誤嚥予防として食事前の嚥下体操があります。これは舌を前へ突き出したり上下左右に動かしたり頬をふくらませたりへこましたり「うー」「いー」「ば」「た」「か」と発声します。そして食べる時は口を閉じて顎(あご)を軽く引いた姿勢が飲み込みやすいです。

当院では、より詳しい嚥下評価や嚥下訓練を受ける事ができます。検査はレントゲン室でバリウムゼリーを食べて喉の動きを見る嚥下造影検査や誤嚥を軽減するための訓練(飲み込みやすい姿勢指導・飲み込みに関わる筋肉のトレーニングなど)、栄養士さんによる栄養指導(刻み食やトロミ食の調理方法など)を受ける事ができます。いつまでも健康でおいしく食事できるように規則正しい生活リズム、運動習慣など、普段からの心掛けが大切です。

## ■ 就業体験

和歌山県立笠田高校、かつらぎ町立笠田中学校、かつらぎ町立妙寺中学校の皆さんが、10月に当院で就業体験しました。

就業体験を通して、働くことや病院の仕事について理解を深めてもらいました。

